

# 福井県民の将来ビジョン 分野別意見交換会 意見概要

## (農業)

- 福井の子どもは、現在全国トップクラスである学力・体力の維持のほかに知力、すなわち自分で考えて判断する能力を身につけて欲しい。そのために、学校農園を作って欲しい。その際、あくまでも担い手は児童・生徒、学校の先生ではなく地域のサポーター（高齢者や地域の野菜づくり名人）であるべき。
- 将来ビジョンは全てをやろうとしないことが重要。あらゆる分野の拠り所となる軸を決め、農業がどのように関わっていけるかを考えるとよい。例えば、県立病院はがん治療の先端を進んでおり、「医療」を軸として考えるならば、ある病気の治癒に効果のある農作物は何かを研究し、病院食として患者に提供するなど。
- 福井県は昔からどんな農作物や加工品でも作るが、売るのが下手である。県をあげて営業し、市場を作って欲しい。昔よく開催された物産フェアなどの食品を販売する場が必要である。
- 農業体験（グリーンツーリズム）は、遊びで終わってしまう。やはり、農業所得が増える方策が必要であり、福井県は売るのが下手。石川県は口コミの宣伝が上手。
- 先日、コウノトリの県内放鳥の話題があったが、餌場の確保は1羽当たり4ha必要であり、現在100haで有機農業を行っているが、計算上は25羽しか放鳥できない。
- 旧宮崎村では、お年寄りが作った野菜が学校給食で出され、新潟の三条市では地元農家の25%が有機米を作っており、市や農協が補助を行っている。このように農業を中心にした地域社会づくりが大事である。
- 昔は米の所得が十分あり、園芸、畜産へと多角的に農業を行うことができたが、現在は米の所得が安定しないことが問題である。
- 若者に農業の担い手になって欲しいが、採算を取るには10丁の田んぼが必要。それだけでも1億かかりリスクが大きく、熟練するには年月を要する。大型農家への住み込み研修制度があるとよい。
- 農業体験（グリーンツーリズム）についてであるが、大人が田んぼに入りたがらない。また、経費がペイできず、PR費用が捻出できない状況である。
- 現在福井の中央市場で扱っている福井県産の農産物は、100億のうちの15億位で、自給率とほぼイコールである。
- 福井中央市場のビジョンとして、奥越のサトイモや坂井のらっきょうのような特産品の開発に取り組んでおり、既に奥越のネギや坂井のかぼちゃ、にんじんなどが特産品になりつつある。これらの50%は加工品になっているので、大型産地の育成が必要である。

- スーパーの押し付けで生産者が締め付けられている。北海道や兵庫では直売所が元気であり、流通改革も必要である。
- 戸別補償制度の農地確認のため、市町の職員が現地を訪れているが、中山間地の農地が荒れており、とても驚いている。
- 農業について、これまで受け継がれてきた先人の教えが10年後は通用しない状況だと感じる。若い担い手がいなければ補助金を受けられないなど地域の農地の守り方を考えなければならない。
- 県はそばに力を入れているが、そばの価格の変動が激しい。県内のそばの流通を変えないとダメ。県内でなくても、東京の業者から入手できる。
- 農業経営の法人化、地域の農業環境を守る担い手の育成など、取組みの形態を変える抜本的な改革が必要である。
- また、民間企業同様、低コスト化への最善の努力、さらに有機米など付加価値のあるものを作らなければ農業に希望はない。
- 全国素人そば打ち名人大会は今年で15回目となり、そば打ちを通してコミュニケーションが図れ、とても好評である。